

中学国語
古文講座

おくのほそ道②

《序文 その二》

基本の解説と問題



【担当講師】
秀浦 りき

《序文その二》ポイント

4 予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、
⑦ — | ⑧ — | ⑨ — | ⑩ — | ⑪ —
()

(語句) ⑦ 予 =
⑧ いづれ =
⑨ より =

⑩ 片雲 =
⑪ の =

[訳]
風に誘われていくように、
() (も) () (の年) () (か) () ()

5 漂泊の思いやまず、海浜かいひんにさすらへ、
⑫ — |
()

(語句) ⑫ 漂泊 =

[訳]
止めることができず、海浜をさすらい、
() () (の思いを)

4 予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、
 (7) — (8) — (9) — (10) — (11)

(語句) (7) 予 = (8) いづれ = (9) より =

(10) 片雲 = (11) の =

[訳]
 () (も) () (の年) () (か、) ()
 風に誘われていくように、

5 漂泊の思いやまず、海浜かいひんにさすらへ、
 () (12)

(語句) (12) 漂泊 =

[訳]
 () () (の思いを)
 止めることができず、海浜をさすらい、

6 去年の秋、かうしやう江上の破屋はをくにくもの古巣を払ひて、
 () () () () () () () ()

(語句) ⑬ 江上の破屋

〓

の

〓

★ [] の家のこと

[訳] 去年の秋、 () () () () () () () ()
 帰つて、くもの古巣を払つて住んでいたが、

7 ^⑭ やや年も暮れ、^⑮ 春立てる霞かすみの空に、

^⑯ 白河の関越えむと、
 () ()

(語句) ⑭ やや

〓

⑮ 立てる

〓

A B

⑯ 越えむ

〓

[訳] () 年も暮れ、春霞が立つ空のもと、
 白河の関所を () () () () () () () ()
 () () () () () () () ()
 () () () () () () () ()
 () () () () () () () ()
 () () () () () () () ()
 () () () () () () () ()
 () () () () () () () ()

①⑦
 ①⑧
 ①⑨
 8 そぞろ神の物につきて心を狂はせ、
 ②⑩ 道祖神の招きに会ひて、
 ()
 取るもの手につかず。

(語句)①⑦そぞろ神 〓 人の旅心をそそのかす神

①⑧の 〓

①⑨物につきて 〓 乗り移つて

②⑩道祖神 〓 旅の安全を守る神

〔訳〕

そぞろ神 () 乗り移つて心をそわそわさせ、
 道祖神が手招きをしているような気がして、
 取るものも手につかない。

★「心を狂はせ」・「取るもの手につかず」

=

〔

〕

様子

おくのほそ道 《序文》

月日は百代の過客にして、
行きかふ年もまた旅人なり。

舟の上に生涯を浮かべ、

馬の口とらへて老いを迎ふる者は、

日々旅にして旅をすみかとする。

古人も多く旅に死せるあり。

予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、

漂泊の思いやまず、海浜にさすらへ、

去年の秋、江上の破屋にくもの古巢を払ひて、

やや年も暮れ、春立てる霞の空に、

白河の関越えむと、

そぞろ神の物につきて心を狂はせ、

道祖神の招きに会ひて取るもの手につかず。

もも引きの破れをつづり、笠の緒つけかへて、三里に
灸据ゆるより、松島の月まづ心にかかりて、住める
かたは人に譲りて、杉風が別墅に移るに、

草の戸も 住み替はる代ぞ 雛の家

面八句を庵の柱に懸け置く。

《序文その二》ポイント

4 予(ず)もいづれ(7)の年(8)より(9)か、片雲(10)の風(11)に誘(お)はれて、

(語句) ⑦予 = 私 ⑧いづれ = ⑨より = から

⑩片雲 = ちぎれ雲 ⑪の = が

[訳] (私)もいつ(の年)からか、(ちぎれ雲)が風(え)に誘われていくように、

5 漂泊(12)の思いやまず、海浜(かいひん)にさすらへ、

(語句) ⑫漂泊 = [あてもなく旅をすること] = さすらい

[訳] (あてもなく旅をしたいという)の思いを止めることができず、海浜をさすらい、

6 去年の秋、江上の破屋（かうしやうはをく）にくもの古巢を払ひて、
（ござ） （こざしやう） （はおく） （い）

（語句）⑬江上の破屋＝川のほとり の 粗末な家

★芭蕉 [] の家のこと （あばら屋）

〔訳〕 去年の秋、（川のほとり）の（粗末な家）に
 帰つて、くもの古巢を払つて住んでいたが、

7 やや年⑭も暮れ、春⑮立てる霞（かすみ）の空⑮に、
 ⑮ 白河⑯の関越えむ（ん）と、

（語句）⑭やや＝ やがて

⑮立てる＝ 掛詞
 A 春が立つ（立春）
 B 霞が立ちこめる

⑯越えむ＝ 越えよう

〔訳〕 （やがて） 年も暮れ、春霞が立つ空のもと、
 白河の関所を（越えよう）（と思つて、）

①⑦
 ①⑧
 ①⑨
 ②⑩
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳

そぞろ神の物につきて心を狂はせ、
 道祖神の招きに会ひて、
 取るもの手につかず。

(わ)
 (い)

対句

(語句)①⑦そぞろ神 ①⑧人の旅心をそそのかす神

①⑧の ①⑨ **が**

①⑨物につきて ①⑩乗り移つて

①⑩道祖神 ①⑪旅の安全を守る神

〔訳〕

そぞろ神(が)乗り移つて心をそわそわさせ、
 道祖神が手招きをしているような気がして、
 取るものも手につかない。

★「心を狂はせ」・「取るもの手につかず」

=

旅をしたいという思いで、落ち着かない

様子

基本問題

《基本問題》

● 次の問いに答えなさい。

(1) 次の語句の読み方を答えなさい。

①「海浜」

②「去年」

③「江上の破屋」

(2) 次の語句の意味を答えなさい。

①「予」

②「片雲」

③「江上の破屋」

④「やや」

⑤「越えむ」

《基本問題》 解答

● 次の問いに答えなさい。

(1) 次の語句の読み方を答えなさい。

①「海浜」

かいひん

②「去年」

こぞ

③「江上の破屋」

こうしょうのはおく

(2) 次の語句の意味を答えなさい。

①「予」

私

②「片雲」

ちぎれ雲

③「江上の破屋」

川のほとりの粗末な家

④「やや」

やがて

⑤「越えむ」

越えよう

応用問題

《応用問題》

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。
舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、
日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。
予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の
思いやまず、海浜にさすらへ、去年の秋、江上の破屋にく
もの古巢を払ひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に、
白河の関越えむと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、
道祖神の招きに会ひて取るもの手につかず。

- (1) ①・③を現代仮名遣いに直し、**ひらがな**で書きなさい。

①

③

- (2) ②の口語訳を書きなさい。

次のページへつづく

③の主語を文章中から抜き出さない。

--

👉 やや難問!

④ 去年の秋に作者が江上の破屋に帰ってくる前、作者はど
うしていたか。文章中から七字で抜き出さない。

👉 よくでる!

⑤ 作者の旅をしたい思いで落ち着かない様子が現れている
部分を文章中から、三十五字以内で探し、初めと終わり
の五字を抜き出さない。(句読点を含む)

⑥に用いられている表現技法を答えなさい。

--

⑦と対句的關係にある部分を、文章中から抜き出さ
ない。

--

【問題は以上で終わりです】

それでは、応用問題を
がんばって解いてください。



確認・応用問題・Practiceの解答 (PDF & 解説動画)は、

<http://e-clus.com/> で購入できます。



フリー学習動画のイークラス
e-CLUS

中学生向けフリー学習動画のイークラス (e-CLUS)。中学の基本問題から応用までを無料動画で学びます

🏠 サイトマップ 🗨 よくある質問 🗣 みんなの声 📄 会員ログイン

ホーム 講座のご案内 講座の料金 教材の種類 動画を使った学習方法 運営会社 お問い合わせ

中学の基本問題・解説から応用問題まで
無料動画 **で自立学習**

中学校3年間で勉強する英語・数学・理科・社会の学習項目を、動画投稿サイトを使って基礎から応用まで無料で学習できます。
応用問題の解答が知りたくなったら有料の解答・解説動画をご利用ください。
マイペースで自立学習ができる学習サイトです。

南アメリカ大陸

パソコン OK! スマホ OK!
タブレット OK!

英語・数学・理科・社会の学習項目を動画で配信中!

ユーザー登録 (無料) →

e-CLUSの指導方法 →

動画学習で成績がアップする理由

教科書対応表で学習範囲をチェック! →

中学英語 →

中学英語 動画をチェック! →
中学数学 動画をチェック! →
中学理科 動画をチェック! →
中学社会 動画をチェック! →
季節講座 動画をチェック! →

無料動画はユーザー登録しなくても視聴できるって!



学習動画イークラス

検索

